

史上最高 295 人参加 華やかに

第 38 回総会

丸山体制スタート

母校百周年事業 成功させよう

関東同窓会は 7 月 16 日、東京一ツ橋の如水会館で第 38 回総会を開き、第 13 代の会長に 51 期の丸山瑛一氏を選出するとともに、新執行部体制を承認した。総会、懇親会には過去最高の 295 人が参加、「秋玲瓏の・・」の校歌が始まったパーティーは熱気に包まれた。

丸山新会長にバトンタッチしたも、前会長は「清新かつ重厚な新執行部で母校百周年事業の成功に向けて力を発揮して欲しい」とあいさつ。丸山新会長は「世代を超えたネットワークをさらに拡大し、インターネットなどによるコミュニケーションを強化したい。母校の百周年事業に最大限協力していく」と抱負を述べた。

また、副会長には丸山氏と同期で東京上田会の中心メンバー村田寛氏、スポーツニッポン新聞社長の森浩一氏(52期)、前幹事長の堀内忠久氏(53期)、講演などで知られる黒岩千鶴子氏(54期)の三氏、幹事長には 55 期の宮島光男氏が選任された。新執行部の布陣は 51 期から 64 期まで広がり、21 世紀に向けて同窓会を「母校を軸にした横のネットワーク」として若い同窓生にも魅力ある存在にしていこう、という決意が込められている。



受付。実行委員は 52, 57, 62, 67 期。
写真展など新工夫がなされた。

金子八郎百周年記念事業
実行委員会委員長の挨拶



実行委員 57 期の面々。右端の篠原秀則、有井毅氏は南相木村の出身。このころは、「友あり遠方より来る、また楽しからずや」だった。



→講演は、東映プロデューサーの吉村晴夫氏(53)「火曜サスペンス劇場」などの裏話を語った。



↑来賓と饗前会長、丸山会長による鏡割り



新人紹介



重要なヨコ型ネットワーク

HP活用、若い層の参加広げたい

丸山氏略歴 上田市常磐城出身、51期。東大教養学部卒、同理学部物理学科卒後、59年日立製作所中央研究所入社。85年基礎研究所長、91年技師長。93年退社。99年政策研究大学院大学教授、理化学研究所フロンティア研究システム長。

※77年にテレビ撮像管「サチコン」の技術開発で放送文化基金賞、テレビジョン学会丹羽・高柳賞受賞をはじめ全国発明表彰など多数。

※理化学研究所は通称「理研」。1917年設立、現在は政府出資の特殊法人。和光市の研究所本所をはじめ各地に研究センターがあり、外国人研究者との国際交流も盛んだ。フロンティア研究システムは、遺伝・ホルモンなど生体系、光と物質や生物との関係、バイオ、地震・防災などについて現代の最先端の科学技術を駆使して研究する組織。



刺激に満ちた高校時代

—まず第13代の会長に就任されたご感想を。

丸山 母校の100周年を迎えるという時期に、ちょうど半分の51期の私が会長になるというのも何かの縁でしょうか。責任の重さに身が引き締まる思いです。同窓会というややもするとシニアの会員が古き昔を懐かしむという色彩が濃く、若い会員の参加が少ないと考えられがちですが、業種の壁、世代の壁を超えた新しいネットワークとして積極的な役割を果たせると思うんです。

—日本のような「縦型社会」の中で、同窓会は横のつながりを強めるわけですね。

丸山 今、タテ型の典型とも言える大企業に元気がない。産業構造が変わり、中小企業やベンチャービジネスの活躍が期待される時代になってきた。それだけに、個人にとつては異業種のネットワークが大事になっていきます。同窓会というのはその異業種交流の重要な場で、ネットワーク作りのお手伝いができる。

▼広がる個人ネットワーク

—ネットワークづくりの意味から見て、前期の業績は大きいですね。

丸山 この3年間の執行部では、関東に在住する同窓生6千人以上を把握して会員名簿をコンピュータでデータベース化されました。この財産は非常に大きいものです。また、会報も親しみやすく、会員の裾野も若い層に大きく広がってきました。

新執行部は、前期の路線を継承発展させる責任を負っています。そこで、インターネットに関東同窓会のホームページも開設したのですが、驚いたことに同窓会のホームページでは70期から下の若い世代が大勢メールを出していたことです。こうした若い人たちの参加をもっと広げていきたいものです。

—来年は母校の創立100周年ですが、本部の方針もだいぶ固まってきたようですね。

丸山 本部が企画されているさまざまなイベントを成功させるよう、できることは大いに協力したい。イベントの内容が固まってきたのは良いことで、さらに充実させるためにインターネットなど双方の機能を活用して意見を求め、手作りの行事にしていければ、同窓生の参加意識も高まるのではないかと。

▼ユニークな仲間恵まれ

—ところで、丸山さんの高校時代にタイムトリップしますが、同期の皆さんによると「勉強した形跡もないのに、いつもトップランク」という「丸山伝説」が伝わっています。

丸山 そんなことはありませんよ(笑い)。優れた、いいライバルがいた。でも、一年先輩に横関徹さんという受験参考書なんかほとんど読まなかった方がいて、非常に刺激を受けた。教養書を漁って読み、サイエンスに対する考え方を学んだ。だから、大学に入ったときは科学哲学を専攻したんです。同期の仲間はみなユニークな人たちが多く。今だから言えるけど、けっこう悪さもしました。神社の祭り灯籠を引き抜いて追いかけられた思い出もある。

—印象深い先生はいましたか。

丸山 いい先生が多かったが、一人を挙げれば数学の井出弥門先生かな。ユニークで熱心で情熱家でした。高校時代というのはとても刺激に満ちた時期でしたね。

同窓会ホームページ開設

Eメールで情報交換を!

「この指とまれ!」上田高等学校関東同窓会のホームページを開設しました。

最近、若者から年輩の方までインターネットを利用されている方が大変多くなっています。関東同窓会活動のPRと、同窓生同士の情報交換ができればと考えています。

HPは「ゆびとま」プロジェクトを利用しました。母校の卒業生一覧ページでは172人が近況を寄せており、1952年卒の先輩から若い世代まで、特に87年卒(85期)からの利用は多くなっています。この2カ月に30人が新規に登録しています(11月8日現在)。

このページを見るためには事前に登録が必要で、氏名、卒業年など画面の指示に沿って入力していけば簡単に手続きができます。

さて、関東同窓会と上田高等学校のフロントページにいくまでに、多少の手順が必要です。まず「ゆびとま」トップページ(注)の中で、左下部にある同窓会情報の「ホームページ」をクリックし、次の「HP情報一覧」

新役員紹介



▼副会長 村田 寛氏(51期)

早稲田大学で歴史学を学び、衆院議員秘書(公)。AA 産業経済調査会、(財)G C S C 常務理事。現在(株)市場開発研究所取締役、東京上田会専務理事◎同期の星、丸山氏を縁の下を支えるつもりで引き受けました。

▼副会長 森 浩一氏(52期)

東京教育大文卒。毎日新聞入社。編集局長、常務取締役を経て現在スポーツニッポン新聞東京本社代表取締役◎古城の門は常に懐かしく、誇りであります。時代の大きなうねりの中、母校と同窓会が新たな一歩をと念じています。

▼副会長 堀内忠久氏(53期)

法政大卒、(株)日鉄ドラム入社。主に営業畑を歩み、監査役・顧問を経て99年6月退職。前期3年間幹事長◎在学中は生物班で過ごした。丸山会長の言われる「ネット同窓会」を作り、年次総会が通信大学のスクーリングのような大会になったら・・・などと夢想。また、同窓会の事務所も作りたいたいというのも夢。

▼副会長 黒岩千鶴子氏(54期)

早大文卒、美術館、出版社などに勤務、結婚後は夫の任地を移動して引越20数回、その間各種雑業◎「古城の門を出で入りて」以来ご無沙汰していた母校の前に最近立てってみました。威厳のある校門は昔のまま感動しましたが、明るい服装で出てくる女子学生達のくったくのない楽しそうな笑顔には感無量で見とれてしまいました。私達が望んでいた共学の理想図を眺める思いでした。

▼幹事長 宮島光男氏(55期)

東京外語大スペイン語科卒、共同通信入社。社会部長、総務局長、常務理事を経て現在業務顧問◎若い人達がより多く参加できる雰囲気作りに努力したい。21世紀へのチャレンジ、叩けよ、さらば開かれん、です。

▼副幹事長 大久保治夫氏(56期) 法政大卒、ナカタ電機(株)東京営業所長 宮坂幸雄氏(57期) 新潟大卒、(株)プライム・システムズ社長 寺島智恵子氏(58期) 東京大卒。中垣貫三氏(60期) 慶応大卒、山信商事(株)社長 松井由美氏(62期) 明治学院大卒、アトリエ華炎代表 石井則男氏(64期) 東京電機大卒、共同通信社 ▼会計長 関五郎氏(55期) 信州大卒、(株)リコーOB ▼副会計長 草間孝氏(55期) 税務大卒、税理士 ▼監事 五十嵐明迪氏(50期) 國學院大卒、(株)ニュープラ会長 小胎治雄氏(51期) 税務大卒、税理士 ▼編集長 井上剛氏(61期) 東京大卒、(株)学習研究社

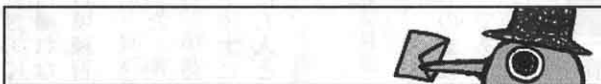
「科学者の眼で最近の教育や世の中を見
てどう感じますか。」
丸山 偏差値教育というのは、尺度を一本化して測ってしまう。世の中、いろんな才能があるのに、できるところを伸ばそうとせずにできないところを「良くしろ」と平均点を求める。価値の多様性について、先生も生徒も目を開いていくことが必要では、と思う。
日本は「坂の上の雲」を目指してここまでできたが、いまだにその意識から脱していない。でも世界の中で恥ずかしくない国だ。文化も優れている。
米国との科学の格差も話題になります

丸山 「科学」と「技術」と「技能」の三つで比べると、米国は「科学」「技術」に優れ、西欧は「科学」と「技能」に優れ、日本は「技術」と「技能」に優れている。これは日本人の特質であって、恥ずかしくない。日本のアイデンティティーなんです。日本の中小企業の持つ技能水準の高さを大事にしなければいけない。
▼街に手作りの良さを
「ふるさとの上田も、市政80周年を迎えました。最近、町がさびれていくような気がするのですが、
丸山 町の魅力は、横丁に特色ある店が

いっぱい並んでいるようなところにあると思う。川越(埼玉県)には遠くから何度も人がやってくる。上田にもポテンシャルがある。周囲には良い拠点があるし、雰囲気も良い。池波正太郎記念館ができたが、そこを拠点に、テパト型でない手作りの街を広げるのも良いと思う。
私の曾祖父は、明治になって上田城が売られたときに一帯を買取り、後になって当時の上田町にそれを寄付しました。真田神社の前にその事を書いた木札が立っています。だから、上田の街の活性化にはひとしお思いも深いんです。
(インタビュー) 幹事長・宮島光男(55)

で「長野」「高等学校」を選んで表示させると、両方のページにリンクすることが出来ます。URLには情報がたくさんついており、手で入力するのは間違いやすいので一度リンクしたら「お気に入り」に登録しておきましょう。
10月にテレビで紹介されたこともあり、最近つながりになっていきますが、根気よくトライしてください。いずれは独自のHPを開設したいものです。
(注) <http://judionasphere.jp/>

いらっしゃいませ!	上田高等学校同窓会	Powered by
主として関東地区に在住している旧制上田中学、松尾・上田高校の同窓生の集まり。	000357 SINCE 1999/08/31	同窓会活動の活性化を支援します
	Created by (C)Web Builder for School_mates' Web	この指とまれ!



[この指とまれ! トップページ](#) [同窓会インデックスページ](#) [母校の卒業生一覧ページ](#)

Welcome to our School_mates' Home Page!

上田高等学校同窓会のホームページへようこそ!

特別企画 座談会と寄稿による 母校・証言の百年



- | | | |
|-----|------------|-------------|
| 寄稿 | 清水幾男 (38期) | 小林孝雄 (42期) |
| | 清水雅夫 (43期) | 高橋昭平 (44-4) |
| 座談会 | 中村礼三 (32期) | 堀内忠久 (53期) |
| | 吉田節生 (40期) | 宮島光男 (55期) |
| | | 司会 |

明治の草創期

上田高校の前身は、県立長野県上田中学校で、明治33年4月、この地方では初めての5年制の中学として独立、開校した。更にその前身は第六大学区(長野・新潟等)の第16中学区予科学校として、明治8年12月開校された。

校舎は現在地。上田城を築いた真田昌幸以来真田、仙石、松平と三藩二百九十年続いた藩主の居館の地。明治7年に県の学務係が内務卿大久保利通に伺いを立てて払い下げてもらったものだという。「邑に不学の戸なく家に不学の人なからしむ」と学制が

発布された明治5年から二年後のことであつた。

小学校の訓導を志す者は、この予科学校で学び、さらに長野の師範講習所で授業法を受けて各校へ赴任した。予科学校はその後変遷をたどるが、教員にならず学科講習だけを受けた人も入学させた変則中学で、英語、漢文、算術、代数、物理などを学んだ。

この時代の卒業生に山極勝三郎(世界で初めてガン細胞を人工的に発生させた世界の医学研究者)、小河滋二郎(法学者、監獄法の権威、社会福祉事業の創始者)がいる。共に東大教授となつた。

東急を築いた五島慶太が入学したのは明治28年。このころは長野県尋常中学校上田支校(支校三年、本校二年)となつていた。五島は青木村から毎日12キロの道を二時間かけて通い、三年後松本本校へ進んだ。小学校を出たばかりの少年が歩き通すのは大変なことだったと想像される。冬は特に大変で、母に富山の葉売りのアカギレ葉を足にはつてもらつて通つたという。教諭には、作家久米正雄の父由太郎もいた。

五年制の中学として完全独立してから、学科は、国漢、英語、地歴、数学、物理化学、図画、唱歌の他、修身と体操の時間に普通兵式として訓練が毎週三時間あつた。生徒は小県郡内が多かつたが、埴科、南北佐久の出身者もいた。

上丸子から通つた伊藤仁(九子の依田社の3男、七期↓四高↓東大)は、述懐する。「朝は暗いうちに家を出た。千曲川にかかる大屋橋で夜が明けた。学校では居眠りもしていられた。算術、毛筆の習字、修身の時間には義理と人情、長幼を尊敬していたわれと教えられた。机は腰掛けがくつついた一人用で勉強はしやすかつた」。

通学に不便な者は寄宿舎に入つた。百二、三十人いた。一週間交代で自分たちで炊事した。土曜日は午後家に帰れると胸が弾んだ。父母が恋しかった。食堂にずりり並んだ名札を裏返して帰つた。家に帰れない人たちは食堂で芝居をやつた。日頃練習した成果の発表会でもあつた。

大正期の象徴「凱歌」

中学生の象徴は編上靴だった。生まれて初めて皮の編上靴を履いて、そのまま教室に入れるのは驚きであり、誇りであつた。

大正10年頃、一年生は学生帽に羽織、袴に編上靴。二年生から洋服となつた。当時の小松校長の考えで、「学生服は、一着で二年しか着られない。二、三年で一着、四、五年で一着が無駄がなくてよい」ということだった。成長が激しい少年時代への配慮である。落第した者は、また二年目を羽織袴で通学して一目で落第生と分かつたが、みな年長者として尊敬した。そうした落第組がどのクラスにも二、三人はいたという。

大正期の記録で注目したいのは「凱歌」だ。

一、夕陽千曲の水の面に

映えたる血潮輝きて

躍るや絶えぬ飲びの

流れにひびく陣太の音

聞けや胸血のたぎる声

誉のかぶと我得たり

二、黙示の色に溢れたる

浅間の峯の空高く

連載第一回 上中時代

今号から三回連載で母校の百年を振り返つてみます。すでに証言の得られない草創期のものは、かつて毎日新聞連載、郷土出版社発行の「上田高校物語」を参照、引用しました。他に座談会に持ち寄られた資料からの引用もあります。(文中敬称略)

五色の旗のたなびきて
夕陽が四方を覆うとき
見ずや誉れのこの旗を
永く我が手に保たなん

作詞は21期生吉村武生四年（16歳）である。吉村は上中を四年で修了し、松高（ここで「嗚呼青春」を作詞）、東大に進み、日銀に入行、将来の総裁確実といわれている秀才だが、病で急逝した（47歳）。

吉村を岳父に持つ渡辺卓郎（40期）は、この歌について次のように記している。「夕陽千曲の・・・」で始まる一番も、「黙示の色に・・・」で始まる二番も、その導入部には敬虔な祈りがある。やがて高鳴る歓喜へと急転する水の流れと彩雲のうつろいゆくなかに浮かぶ、美しい故郷の夕映えの山河がある。その中にとどろく勇壮な陣太鼓と高くはためく旗に、栄冠とこれを守る内なる決意をうたいあげている。それはまさに一幅の絵を見るような青春の讃歌である。・・・そこには故郷の山河が見えると同時に、人生の故郷である青春がある・・・」

当時の上中生の心情がよく歌われているのである。
この歌は田村民治（20期）が全国陸上競技大会の八百米で優勝し、その凱旋を駅頭で迎えようと作詞した祝歌だった。詞は二日のうちにできたが作曲が間に合わず、当時の東京農大の応援歌の曲をつけて歌われた。当時小学生であった竹内敬太郎少年（29期・後に本校教諭）は祝賀の提灯行列を郵便局の側の山城屋の前で見物していた。「田村選手は少年倶楽部の表紙にもなり、少年たちのアイドルとなった。」と渡辺に思い出を語っている。竹内少年は知り合いの中学五年生から凱歌を習ったという。

昭和期・地域の勉強会

昭和期に入ると現存されている方も多いため、今回この会報のために特別に寄稿をいただいたり、お集まりいただいたり。まず清水雅夫（43期）の思い出から。

「・・・私は西丸子線で通い、下之郷駅で乗り換え、別所線で上田まで通学した。通学の各地域には、川西同志会、抱雲会、啓明会等一年生から五年生までを包含した自治的な集合があり、その地区の小学校を借りてはコミュニケーションに努め、懇談会、茶話会、野球、山野の散歩等をして交友を深めていた。・・・特に変わっていたのが挨拶である。「オース」と大きな声を出して乗車する。すると車中の生徒も「オース」と返答する。駅に停まる毎に五回も六回も「オース」。一年生から五年生まで、精神的に肉体的に差は大きく、自然に先輩をたて、長幼の序を学んでいた。

一時間近い通学時間も勉強の場、「幾何の突破」という参考書を開き、はさんだ白紙に答案を書きながら答えを追究した。学校では長野中、松本中、諏訪中との競合いも盛んで叱咤激励され、四、五年生の上級学校志望者に対して行われた模擬試験で実力の程を競い合った。結果は十番位迄は極大字で点数と名前が、30番位迄は大きな字、50番位迄は細字となつて名前が出された。この結果、一高、二高等ナンバースクール、地方の高校、陸士、海兵へと挑戦意欲をかりたてられた。特に四年生から受験資格があった高校、陸士、海兵、大学予科に同級生が合格すると、残つた五年生一同大変な刺激を受けた。中学生活五年、一、二年で成績が悪くとも三、四年と努力すれば卒業時は優秀な成績という例も多く、今の6、3、3制に一石を投じたい。」

中村礼三（32期）の思い出は、柔道部から野球部へ変わったこと。当時柔道と剣道は正課だった。弱くても強くても部員には百点をつけてくれた。一科目が40点以下、平均で60点以下だったら落第の対象という当時、この点数は貴重だった。三年で選手にまでなった柔道部を離れたくなかつた。しかし先輩が「お前、林先生に歴史教わっているだろう。林先生は野球部の顧問だ。柔道で減つた分歴史で増やしてもらおうように、俺が先生にナシブツテオケカラ」との強制的な誘いで部員の少ない野球部に移つた。しかしその話は先生には通じず、また柔道の点数はとたんに60に落とされるので結局苦労した。氏はこの後一生を通じて野球部の後ろ盾となつて活躍することとなつた。

「そんなに落第生がいたのですか。中村「ああ何人も。入学式が終わつて新

昭和恐慌の頃

入生が教室に入っていくと、でかい顔をして座っている。先輩の落第生だった。」
宮島「でも、当時上中に行くのは地域の超エリートだったのでしよう。」

中村「そう、上中に行つてみると、家には「上田中学校生徒○○」という表札がかげられた」（長野県立上田中学校生徒）という焼き版の時代もあった。そして、地域の人たちも「どここの○○さんは・・・」と一目おいていた。しかし、息子を中学に送る親の苦労は大変であった。

中村が紹介したのは、氏が同期生の会誌を作つたとき、星合義男（後に長野県小学校長会長・上田市教育長）から送られて来た次のような絵と記録だ。絵は表紙にした。

ある日生家の甥から既に退職の身となつていた星合のもとに一つの袋が届けられた。煤けたしわだらけのハトロン紙袋、「成功袋」と書いてある。中から出てきた物を見て、星合は「喫驚仰天」した。そこには、氏が昭和三年入学以来卒業までの上中五か年間の学費が最大漏らさず、きちんと筆記されていたのだ。通覧後、星合は筆舌につくせぬ感慨で「父ありき」を痛感し



た。「父は学費を工面し、黙々と記録し続けていたのに、知らぬ愚息は得々といひいで誇り高き学帽をかぶり続けたかと、当時を偲び冷汗三斗、思わず心中脱帽合掌だった」と記している。

でいた参考書を挟んで読んでいた。先生に見つかりましてね、やはり殴られました。」

ニツクネームと数え歌

中村「今でも思うのは、先輩たちがつけ

たんだらうが、実にもうまくあだ名がついていたね。数学のミソ玉だとか、英語のドントだとか。」

吉田「私達のころは佐々木校長がキツネ、潮田教頭がタヌキ、英語の小林先生がセンチンスだった。数え歌があつて、ふたつとせー両親許さぬ恋仲をうまくまとめたセンチンス、というんです。」

高橋昭平(44・4)「私たちもセンチンと言っていました。数え歌はそんなだけに、修身も教えてくれた厳格な先生でした。歯をくいしばつておこつた。」

吉田「数え歌の一番は、ひとつとせー人も知つたる上中に六尺豊かなタネがいる。種馬のように大きな柔道の先生。」

中村「寝技が得意でタコのような長い手足で抱え込んでくる。そして上四方固めで締め付けるとき、先生の股間がちようど当たるんです。「あつ、タネというのはこのことだな」と思つてすぐ「まいった」と言いましたよ。」(笑い)

高橋「でも、当時教わつた柔道は相手の力を利用して倒す講道館柔道。近頃の力万能の柔道をテレビで見る度にタネさんのことを思い出します。」

吉田「そのことを「精力善用」といっていましたね。」

小林「私の思い出は中村六さん(六男)。英語の意味を聞かれて答えられないと「ニールダウン オンザフロア」げたをはいたまま、あの狭いところに座らせられるんです。(当時は机とイスがつかつていた)」「あれ、下駄履きですか。」

高橋「戦争が激しくなると、運動靴から地下足袋、やがて下駄になりました。下駄履きにゲートルというのもしましたよ。」

(昭和13年7月靴の新調が禁止され、それまで御法度の下駄履きが許された。翌14年からは修学旅行も廃止された)

小林「地理の高野豊文先生は必ず地図を持ってきて、山脈でも何でも教えた。上田の町についても、どのように商工業が成り立っているかというのを道路をかかせて実利的な教え方をした。朝鮮半島などもここは誰、ここは誰と担当を命じ、私も一生懸命勉強していつて皆の前で説明しました。」

吉田「地図を読め、が口癖でしたね。地図が読めれば一人前だと。それを東北弁でツズを読めと言つていました。」

高橋「私は野明潔先生が思い出。科学的体育というのをモットーにしている、生徒の成長を写真に記録する。毎年六月に筋骨がどれだけ成長したかというのを目盛りをついた黒板の前で全校生徒裸で写真を撮る。私は二枚しか持つていませんが五年間いた人は五枚持つてはいるはずですよ。」

小林「ああ、私は四枚持つてはいるよ。」

高橋「生徒の体力には気を使われて夏休みには、体の弱い人を集めて、自分の菅平の野明山荘で合宿させた。」

吉田「昔は生徒と先生の人間的な関係がうまくいつていたように感じるね。」

堀内「今は先生の任期が短いですね。私も、

軍事教練と勤勞動員

やがて時代が下つてくると、軍事教練と勤勞奉仕の思い出が中心になる。



靴修繕費というのは、何度も出てくる。総額五百六拾貳圓拾貳銭。五百円で家が建つ時代だった。

懐かしい先生

座談会で盛り上がったのは、先生方の思い出話だ。

吉田(岩下)節生(40期・裏表紙の写真の少年)は、笠井南村先生を語る。

「卒業式の時、転勤で去るとき、泣きながら黒板に漢詩を書いた。そのコピーを僕らはみんな持つている。よく殴つたが殴られてもさわやか、本当に我々のことを考えていると愛情を感じられる先生だった。」

——どうしてなかつたんですか？

「漢文で白文というのがあつた。これを20回読んで来いが口癖で、あてられたときすらすら読めない、つかつかつて来て殴るんです。それが何人か続くと、全員やられるんです。」

小林孝雄(42期)「私らの時もそうだった。で、ある時A君というのがすらすらと読んだんです。ところが当時「マメ」とよん



笠井南村先生と当時の教室

兄たちからあだ名を聞いていた先生が、自分が行つてもまたいるというのがよかつた。」

高橋「そう。国語の五銭(ごせん)という先生は、明治大正昭和といいたんでしよう。」

吉田「ああ、池田先生ね。数え歌は十番で、ところもあらぬ町中で五銭アイスのイケダさん、というんです。五銭アイスをなめているのを見られたんですね。漢文の先生で、チヨビ髭はやして見るからに謹厳な先生でしたので歌になつたんですな。」

寄稿
「J」の道は
どうへ行く道

清水幾男(38期)

いま、上田中学校の校門を出て、堂々と行進していく中学生、これは私どもの中学時代の姿です。このころは、軍教、教練が正課で、佐官クラスの配属将校と囑託の将校がいて私どもをしょいでいたのです。当時は、鳥居峠を越えた群馬県側の鹿沢

温泉周辺の広大な演習場で訓練が行われており、この写真は、そこへ向かって前進していくときの光景です。小生は重い銃は担がず、指揮刀を持って先頭を歩いています。当時の私どもには、この行く先がどうなるかなど全く見当がつかないで、ただそうしなければならぬと思っ、黙々と進んでいったわけです。この行きつく先は、軍部の画いた戦場であつたのです。私どものクラス・メートの中には、戦死者が非常に多い。言うなれば「弾丸よけ」の年代であつたのです。

私ども38期のクラス会は、毎年終戦記念日の八月十五日に上田の「ささや」に集まつて、戦死者の霊を弔うことにしています。日時も場所も最初から決まつていて、ここへ行つたら誰かに会えるという歴史的事実になつてしまつたから変更はできないということになつています。

またこの演習にはこんなこともありました。同級生の中には大変な豪傑がいて、水筒に日本酒を入れて行き、夜、酒盛りをして楽しんでのがいました。ところが水筒に酒の匂いが残つていて酒盛りが露見して、大目玉をくらつたサムライもいまいした。そんなこともあつた軍教の思い出です。



高橋「私は昭和16年入校、21年四年で卒業、海軍兵学校に進んで半年で終戦ですから、戦争で始まり、戦争で終わった中学時代でした。一年の時から控室に毎日戦果が発表されました。アメリカの軍艦が書いてあり、それを赤で消していく。三年までは普通の中学生生活でしたが四年になると通年動員となり、夏には二班に分かれ、一方は木曾のダム建設、私達は北安曇郡北小谷村という所に行きました。その山奥に大きなブナ林があつて、その木で木製飛行機を作るんだが、林道がないのでまずそれを作るといふことでした。子供ながらに今から間に合うかなと思つた。その前に海兵を受けていましたので、その合格通知も、泊まつていた農家の二階で知りました。

秋に上田に帰つてからは、染谷丘に疎開してきた富士電機の工場に行きました。そこで作つたのは手回しの発電機。塹壕の中でこれを回して、後方の司令部と連絡を取る電源にするものです。回転数が安定せずオシヤカが出るというので工場は苦勞したようです。勉強はむしろ海軍に行つてから。英語なども海兵で習つた。」

高橋「全くの奉仕です。動員先で朝鮮の人なども見ました。後日あの人は強制連行だったのかなあ、という話になつた時、同期の峰村君に俺達だつて強制連行だつたよ、と言われて、なるほどと思つました。」

いとおいしい青春

宮島「ではこの辺で百年を迎える母校に一言ずつ・・・」

高橋「今、小諸から上田に通えない。もつと自由にしてほしい。私は小諸だから、先輩がいなのが寂しい。」

小林「私たちは軍国主義というフラスコ

の中で純粹培養された時代。だけど、私たちの中学時代は、そこで人生の選択をする時代、いろんな先生、友達に出会つて青春を謳歌できた時代、夢と理想を追つて懸命に生きた時代であつたような気がする。その後いくつかの学校に行つたけど、上中時代ほど熱心に勉強した時代はなかつた。徹夜したことも幾晩もあつたし、朝起きて鼻血が止まらなくても学校に行つた。それから人生の基礎はあの時代に築かれたと思う。今は昔と違つて自由の中で生活しているわけだけど、人生の基礎を築く生活を送つてもらいたい。」

吉田「五年制というのがよかつたんだね。今は短かすぎます。」

中村「そして文武両道。野球部だつて、ミーティングが終わつてから英語の先生と勉強したりしていたよ。」

座談会が終わつて、上田中学の青春を振り返るとき、次のような言葉がよみがえつてきた。

小林「私は、上中から海兵に進んだ学友の足跡を「いざ百難に試みん」という本に纏めたとき、上田中には素晴らしい先輩がたくさんいたんだなあとつくづく思いました。彼らは若くして死んでしまつたけれど、彼らの思い出がいっぱい私にはつまつている。彼らの分まで働きたい、あれから50年、今でも現役で頑張っているけど、そういう気持ちでいっぱいです。」

高橋「あの時代、ああいう気持ちで行つたということは、自分としても誇らしいというか、非常にいとおいしいという気がします。」

・上田中学には人生の基礎となる確かな青春があつた。そして後の心に残るいとおいしい青春があつた。それを実感した。

(文・井上 剛61期・本誌編集長)

会員 短信

精一杯生きるのみです。
▼弘世弘信 (33)
東京都歩け歩け協会の役員として、全国の例会に参加しています。

▼若林彦六 (34)
昨年11月狭山市主催の友好都市親善訪問というこ

▼上田政男 (25)
92歳になり、耳、目とも不自由で幹事交代を考えています。同期も少なく候補者探しも困難になつてきました。

※いつまでもお元気で

▼山口喜一郎 (26)

明治、大正、昭和、平成と年号だけでも四世代を生きてきました。1906年生まれですから約一世紀を過ごして参りました。平凡に心静かな生活は長生きの基なのでしょ

うか。諸兄の健康を祈っております。

▼田中五郎 (28)

クラスメートも数少なくなり、淋しい限りです。私自身も88歳の米寿を迎え何とか毎日を通り越しております。皆様によろしく。

▼土屋 学 (31)

満87歳を迎えてゴルフと囲碁に毎日追われていま

す。

▼宮崎光邦 (32)

充実した会報を上中時代から66年過ぎたが懐かし

く拝見しています。今を

あ。好きな歴史研究、史跡探訪、囲碁など気ままに過ごしています。

▼丸山仁志 (42)
生涯現役の気構えで、長年群馬の伊香保に単身赴任、頑張ってきましたが病には勝てず平成9年3月をもって退職、東京に

▼小林重夫 (44・5)
謡曲などの趣味を楽しみながら余生を過ごしております。

▼上原 亮 (47)

我々47期は修学旅行なるものを経験したことがなく、そこで今回有志20名による卒業50年にして初

計画交通研究会のメンバーとして若い大学の先生方と研究活動をしていま

す。80才になります。東京読売CC、武蔵CCのメンバーとして月一回程度のラウンドをしています。

▼新井邦夫 (37)

社会福祉法人「足立邦栄会」を建設中です。本年より37期の会長を務めます。上野で年一回陸士55期の会合を持っています。

▼菊地 博 (39)

相変わらず元気で診療を続けています。日本臨床内科医学会の常任理事をこの3月で終わり、やっとゆつくりした気分です。

▼川尻悦三 (41)

今のところ体調はまあま

めで修学旅行なる趣旨の旅行を奈良、京都で行いました。丁度修学旅行の季節でもあり、楽しい思い出になりました。健康は本当に有り難いと実感しました。

▼殿城 乾 (47)
卒業50周年を記念して5月30日から2泊3日で奈良京都へ修学旅行、参加者20名で盛会(上田からも4名参加)でした。企画及び世話をされた幹事に感謝しています。

※この修学旅行に関しては足利市の小山俊二さんから同内容のお便りを頂きました。

▼馬場善一 (47)

この年齢になってまだ仕事に感謝しています。

▼山崎繁廣 (47)

現在無職にて老齢の体力をいかに有意義についやすか、努力中です。5人の孫に囲まれてよい「ぢぢ」であるために苦労している近況です。68年の歳月を振り返りながら。

▼小林芳彦 (48)

同窓会も年輩者が多く、働き盛りの人や若い女性が少ないという現状とあります。若い人たちが積極的に参加できるように尽力を。

▼桐山博光 (48)

最近しばしば上田を訪れ上小地方の文化遺跡を巡っています。桜の咲く季節に訪れた大法寺の三重の塔、前山寺と近くの無言館など非常に感銘を受けました。百周年記念事業にこれらに絡んだイベントがあつたらと思いま

す。

▼内久根孝一 (51)
日本棋院の囲碁普及指導員になりました。海外だけでなく国内でも、もっと囲碁愛好者が増えることを願っております。こ

関心の方は是非ご一報を願いたくお待ちしております。(03349-7471)

▼酒井寛文 (48)
65才で定年を迎え、現在首都圏のマンションの竣工検査を行っています。

▼竹内恵三 (48)
農事と孫と暮と小旅行に老化に身を任せています。

▼塚田正直 (48)

元気で柔道を通じて地域の少年少女に指導を行っています。そして自分の健康のためにも頑張っています。

▼吉村 功 (48)

学窓を巣立つてから45年の永いサラリーマン生活も6月末で終わりました。健康に恵まれ今になると楽しい思い出ばかりです。これからは毎日が日曜日、家では粗大ゴミ扱ひされぬよう適当に歩き廻ることとします。

▼渡辺茂雄 (48)

株などの評論をやっています。もうくたびれてしまったので、引退の心準備をしているところで

▼母袋洋三 (49)

本年5月末日をもって、社会福祉法人日本盲人会連合会を退職し、6月より東京医療福祉専門学校で介護福祉士養成の業務に携わっております。

▼内久根孝一 (51)

日本棋院の囲碁普及指導員になりました。海外だけでなく国内でも、もっと囲碁愛好者が増えることを願っております。こ

関心の方は是非ご一報を願いたくお待ちしております。(03349-7471)

▼蒲生卓磨 (51)
3年間JICAのプロジェクトリダーとしてパキスタンへ行っていました。昨年5月に帰国し、自宅にいましたが、10月より科技厅の重点研究協力員として、食品総合研究所に勤務し、酵母のDNAの研究を手伝っています。

▼小松憲治 (51)
今年4月から勤務先が、千葉大学から日本大学大学院総合社会情報研究科へと変わりました。

▼丸山 弘 (51)

最高検察庁事務局長を最後に退職し、平成7年7月から甲府公証人役場で公証人として勤務しています。

▼広瀬敏夫 (52)

広瀬アドバイザリー事務所を開きました。住所は中央区日本橋2-7-25日本橋交差点ビル105号内電話03-3281-0951です。

▼松崎義一 (52)

不動産鑑定業に加え、本年4月より千葉地方裁判所の民事調停委員として地域のトラブル等の解決に精を出しています。

▼松本延夫 (52)

昨年4月明治学院大学文学部長に就任しました。職責上、自分の身体であ



この絵は実際に写生したものではない。60年前朝夕眺めていた記憶の風景で、今でも眼を閉じればこんな風景が脳裏に甦ると云う次第。絵の中の並木だけが現存の景色でその下の坂道が北国街道。現在その下を上田バイパスが走っている。
清水信32期・平成4年画
同期生会誌「今を生きる」NO5号より

塩尻より高橋孝一と記す

つて自分の身体にあら
ず、当分研究生活とは無
縁の日々が続くことにな
りました。

▼黒川次郎 (54)

2年前からNHKの関連
団体の理事長を務めてい
ます。NHKや放送関連
事業の人材育成が中心で
すが、話し言葉や朗読の
通信添削、イベントの企
画演出などもやっています。

▼浜村希志夫 (54)

お盆に往復とも普通列車
で上田に行つて来まし
た。片道3350円。横
川・軽井沢間はバス。特
急待ちが少なく、意外に
早く着きました。

▼藤村延魚 (54)

アメリカのホテル会社に
働いて37年になります。
勿論何回もホテルは変わ
りましたが、61才になり
ましたがお陰様でまだ現
役で海外を飛び廻ってお
ります。「人生夢ロマン」
「楽しかったらビューテ
ィフル」がモットーです。

▼香掛勝利 (55)

今年6月からフリーとな
り、自宅をベースに「リ
フォームアドバイザー」
として動き廻っています。
メールアドレスは
kutsu@seaeic.jp

▼小林節夫 (56)

昨年12月をもって定年前
でしたが会社を退職しま
した。「人生90年！ロス
(ランペン)コロリ」運動

をスローガンに地域で健
康普及活動をしていきたく
いと考えています。

▼高木佳年 (57)

平成10年米国シリコンバ
レーから神戸に帰りまし
たが、僅か1年で神戸か
ら阪南に勤務の關係で転
居しました。(住所別掲)

▼生田満穂 (58)

山形→神戸と8年半身
赴任を続けていましたが、
今年の4月から東京
勤務になりました。神戸
では大震災にも遭い、大
変貴重な体験をしまし
た。

▼桜井資悦 (59)

連結決算中心時代を迎
え、海外往査が急増して
きました。

▼清水幸雄 (60)

昨年8月5日付けにて大
日本印刷株より特許調査
関連会社である株ディー
エヌピー・テクノリサー
チに移動となりました。
新聞班の同期の皆さまに
お会いしたいものです。

▼塚田 晃 (60)

60期の諸氏も定年目前、
且つリストワでお疲れの
ことと存じます。頑張り
ましょう。航空業界も誠
に厳しい状況であります
が最小のコストで最大の
利益を出すべく頑張つて
います。

▼滝沢雅男 (61)

昨年33年間勤務した会社
を早期退職して、今年か
ら永年の夢、油絵制作と

自宅翻訳に専念すること
にしました。ここ高尾山
の麓は風光明媚で、上記
仕事に適しております
有り難いことです。

▼片山隆行 (62)

3月の移動で神奈川県中
原警察署に移動になりま
した。

▼中野敬三 (62)

検察静止画放送の仕事
始めて5年になります。
見たい情報を何時でもテ
レビで選択して見られる
サービスが倉吉市の
CATVで始まります。子
供からお年寄りまで簡単
に使えるこのサービスを
上田でもやりたいと思っ
ています。

▼有賀 猛 (64)

3月に自作の住居に引ッ
越しました。本業ではあ
りませんが、自分の家とも
なる様々な苦労と楽し
みを味わいました。(住
所別掲)

▼北原巖男 (64)

沖繩にて米軍基地問題に
取り組んでいます。

▼水島良子 (67)

いつも会報有り難うござ
います。楽しく拝見させ
て頂いております。相変
わらず仕事に就いてい
て、ボランティア活動のほか、
社会教育団体にも属して
いますので忙しくしてい
ます。地元にも県人会が
あり、夫(飯山出身)と
入っています。皆様のこ
活躍をお祈りしていま

す。(長女の友達のお父
様が先輩でした、世の中
狭いものですね。)

▼高橋典子 (71)

平成9年度に司法書士試
験に受かり、近くの事務
所で見習いをしていま
す。時々ミスをしては落
ち込みつつ、何とか忙し
い日を送っています。

▼高木 繁 (71)

今年6月1日付けで省内
移動となり鉄鋼課に勤務
しています。米国鉄鋼業
界及び労働組合からのア
ンチダンピング提訴に取
り組んでいます。(通産
省勤務)

▼船渡和男 (72)

最先端のスポーツ科学を
取り入れて、国際競争力
の向上を目指す日本初の
国立スポーツ科学センタ
ーが平成13年4月にスタ
ートします。本年4月よ
り設置準備研究員として
勤務しています。

▼草野義嗣 (74)

神奈川県に暮らして20
年。今は長野に実家もな
く、故郷に戻る機会があ
りません。同窓会報だけ
が、母校や上田の近況を
知る便りです。

▼川村(浅川) 理恵 (83)

現在二児の子育て中で
す。男の子一人なので、
毎日が戦争のように慌た
だしく過ぎますが、主人
を含め素敵な男性たちに
囲まれて幸せに主婦して
います。子育てに一段落

した頃には是非総会に参
加させて下さい。

▼小林昌志 (95)

現在大学でアメリカカンフ
ットボールと勉学をして
多忙な毎日であります
が、高校で養った精神力
で乗り切れたらと思いつ
張っています。(学習院
大学)

▼金子友美 (97)

新しい環境にも徐々に慣
れ、毎日を楽しく過
しています。同窓会の集ま
りがあることを知り、次

回は是非参加させて頂き
たいと思います。(横浜
市立大学)

▼清水崇雄 (97)

大学では建築について学
んでいます。教職課程も
取りつつ、硬式野球部に
所属しているため忙しい
日々ですが充実した生活
になっています。(芝浦
工大)

▼滝沢友恵 (97)

高校にいた時よりは楽し
く勉強しています。短大
なので時間は少ないです
(図書館情報大学)

東信同窓連・佐久めぐり文芸の旅

山崎延秋(48期)

長野県高校東京同窓会の東信地区連合会は、10月23、24日、「ふるさと訪問、佐久めぐり文芸の旅」を実施した。

参加校は岩村田、佐久、小諸、北佐久農、野沢北、野沢南、臼田、上田、染丘、上田東、上田千曲、蓼科、小海、軽井沢、丸子実の14校、56人。

新幹線佐久平駅に集合して、初日は仙祿湖、ほととばし、浅科、五郎兵衛・天来記念館、笠取峠の松並木、津金寺などを巡った。

サンピア佐久の懇親会には三浦佐久市長はじめ、野沢北、蓼科、佐久長聖の同窓会長も加わり、参加者は信州の香りを満喫した。

翌日佐久美術館では日展会友の鈴木公人先生のご案内を受けた。佐久長聖高校を訪問、熱心な教育方針などについて説明を受け、生徒たちが生産した合格米と、校舎の隣に実った真っ赤なりんごを土産にいただいた。

佐久セントラルでの昼食は心尽くしの佐久鯉、さらに千曲錦酒造を訪れ地酒をたらふく賞味して、秋晴れの楽しい信州の旅だった。

(事務局から) 東信同窓連の今回のイベントには他校からは複数の参加がありました。ただ参加者が増えるように努力します。

リレー随想

倉島 彰氏 (54期) より
中村礼三氏 (32期) へ
リレー

矢島五郎先輩と私

「東に浅間の噴煙を仰ぎ、西、千曲の清流で・・・」。これは今は亡き矢島五郎先輩(31)の自己紹介の緒言である。関東同窓会が発足して二年有余も経た、夏の日射しも終わりに近づいたある日の午後、池袋の八峰閣の地下にある信濃路まで直ぐ来いという電話があった。

何事ならんと馳せつけると、先輩は既に独酌でチビリ、チビリ。見るにいつも先輩の腰巾着である花岡(35)、石倉謙一(35)の両君の顔が見えない。今日は私一人であるという。「オメエは下戸だからソバでも喰えや」と早速きり出したのは「オレナア、近頃いろんな会からお呼びがかかって出席すると決まって自己紹介のくだりがある。他の人達のような拘り定規のあいさつじゃつまらネエ。上田高校ここにありと印象づけるような文言はネエか。考えてくれや。」とのご託宣である。急に言われても直ぐできるような頭じゃない。ああでもない。こうでもない二人で頭をつき合わせて試行錯誤の

結果、一応出来上がったのが次の文句である。

「東に浅間の噴煙を仰ぎ、西、千曲の清流で産湯をつかい、信州は上田の城主、従五位下真田左右衛門尉幸村の城下上田高校で燈火に親しみ勉学に勤しんだ姓は矢島、名は五郎、以後呢懇、お見知り置きを！」

この破天荒な文言と先輩のダミ声がマツチして忽ち有名になり矢島五郎あるところ上田高校あり、上田高校あるところ矢島五郎あり、一時代を風靡した自己紹介である。私はこの作文の経緯を先輩の生存中決して他人に洩らさなかつたことで先輩との約束を守つたと思つてゐる。

60期以前の諸兄は一度ならずこの科白を聞いていることと思う。ドスの利いたダミ声の口上を再び聞いてみたいと思つるのは私一人ではないだろう。先輩の側近は殆ど鬼籍に入り私も二千年には八十五才になる。

古い古いお話である。 合掌



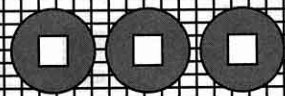
矢島氏

中村氏

住所変更

合表示変更

- 桜井 隆 (41) 船橋市大穴北 1-26-1-309 047-457-4769
- 工藤敦男 (47) 府中市本宿町 4-7-1-101 042-368-7935
- 西沢 博 (48) 村山市諏訪町 1-6-3-4-407
042-392-2157
- 山本晏久 (51) 調布市多摩川 6-14-2-101 0424-85-6609
- 小松雅美 (52) 千葉市美浜区磯部 9-1-901
043-303-0502
- 中村茂之 (52) 流山市加 1-6-1 ヒルサイドコート 2-302
0471-58-7630 (Fax ♪)
- 広瀬敏夫 (52) 鎌倉市腰越 5-5-31 0467-32-2464 (F ♪)
- 高木快雄 (53) 杉並区和泉 4-46-6 03-5378-4233
- 馬場武彦 (54) 港区西麻布 4-11-7-701 3407-5007 (F3407-5408)
- 古見喜八郎 (54) 横浜市栄区桂台南 1-23-9 045-892-0381 (F3407-5408)
- 大沢和幸 (56) 北見市高米西町 10-7-9 0157-22-1597
- 小林英郷 (56) 練馬区旭町 1-11-16 3930-5456
- 藤井忠士 (56) 川口市芝植木樋ノ爪 1-10-14 048-214-3822
- 高木佳年 (57) 阪南市箱作 446-124 0724-76-0043 (F ♪)
- 比田井忠和 (57) 四日市市北浜田町 11-21-405 0593-57-2910
- 山極逸雄 (57) 横浜市港南区笹下 1-5-26-606 045-845-3990
- 赤池三男 (58) 中野区上高田 1-14-10 3389-5108 (F ♪)
- 羽入田満治 (58) 中央区晴海 1-6-1-913 3532-9441
- 関本桂子 (59) 町田市金井町 1880-8 042-737-1815 (F ♪)
- 松本 強 (60) 上尾市小泉 300 048-726-8182 (F ♪)
- 井出孝光 (61) 港区高輪 4-10-31-1015 3449-2751
- 有賀 猛 (64) 練馬区高松 1-33-8 3577-5537 (F ♪)
- 北川原智 (64) 目黒区柿の木坂 2-30-3 5729-3241
- 北原巖男 (64) 那覇市松山 1-21-1-201 098-866-8603
- 坂本恒美 (64) 横浜市磯子区坂下町 4-5 045-761-1701
- 土屋 修 (69) 東大和市向原 6-935-1 セザール東大和 405 号
042-565-8737 (F ♪)
- 山崎祐二 (69) 千葉市美浜区真砂 3-17-4-1308 043-278-8494
- 志村速男 (71) 埴科郡戸倉町内川 665-3 026-261-4545 (F026-261-4546)
- 浅沼 徹 (72) 座間市相模が丘 4-53-22 046-252-2895
- 岩崎裕治 (72) 足立区東和 4-18-4-402 5616-474
- 田村順一 (72) 豊島区南長崎 3-20-1 5996-9138
- 花里利一 (72) 大田区西嶺町 18-18 5741-1407
- 西沢英一 (74) 所沢市くすのき台 3-11-3-511 042-998-3337
- 山口哲明 (74) 目黒区青葉台 3-7-17-1606 5489-2278 (F ♪)
- 市川 研 (76) 練馬区石神井台 3-21-10-102 3904-9771
- 市川和子 (76) 練馬区石神井台 3-21-10-102 3904-9771
- 金井一正 (76) 川崎市幸区塚越 4-320-4-311 044-555-8262
- 芹沢英利 (77) 相模原市相模大野 5-23-9-204
- 小林和幸 (77) 横浜市青葉区新石川 2-26-414 045-911-7838
- 小林恒雄 (78) 東村山市栄町 3-31-5-302 042-393-5037
- 田村理恵 (78) 豊島区南長崎 3-20-1 5996-9138
- 村山絵身 (78) 茨城県北相馬郡守谷町みずぎ野 8-3-17 0297-45-8736
- 平林公男 (78) 上田市常入 1-7-100 0268-21-5356 (F0268-21-5388)
- 根本 (宮田) 昭子 (78) 横浜市北区太尾町 146 ルミエール大倉山 402
045-547-9217 (F ♪)
- 早坂ゆかり (79) 世田谷区北烏山 8-29-20-209 5313-6875
- 小宮山弘 (79) 上田市大手 2-3-15 石井ハイム A 号 0268-25-4507
- 高森康利 (80) 新発田市舟入町 1-16-4 舟入グリーンヒルズ D201
0254-26-8047
- 山浦正宏 (80) 杉並区善福寺 3-7-8 オリブヒルズ 206 3397-0457
- 金井敦子 (81) 川崎市幸区塚越 4-320-4-311 044-555-8262
- 田中万盛 (82) 川崎市中原区上平間 1254-2-408
- 田玉智明 (82) 千葉市美浜区磯辺 5-9-1 パークシティ 検見川浜・東の街 514
043-270-2039
- 加藤芳弘 (85) 横浜市神奈川区神大寺 3-18-26 ユーハイツ 202 045-413-6504
- 吉田知弘 (85) 所沢市向陽町 2005-7-203
- 田中正暁 (87) 水戸市吉沢町 844-2 サイクル機構吉沢住宅 B103
029-248-0964
- 堀内弘徳 (95) 相模原市橋本 2-14-3 キャトルセゾン橋本 9-205
090-1869-0500
- 早川裕之 (96) つくば市要 84-124 アーバン旭 76 番館 102 090-4536-7420
- 加藤朋江 (96) 相模原市西大沼 4-8-25 サニーヴェール 105 042-766-0475



訃報

ご冥福を

お祈り致します

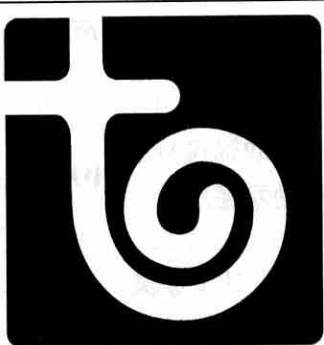
長井盛至氏 (18) 平成 6 年 11 月... 西澤慶二郎氏 (21) 平成 10 年 8 月 18 日... 高島兵庫氏 (25) 平成 11 年 1 月 11 日... 吉川数馬氏 (29) 平成 11 年 4 月 19 日... 宮沢嘉男氏 (30) 平成 7 年 3 月 3 日... 佐藤 茂氏 (30) 平成 10 年 1 月 13 日... 柳田茂雄氏 (30) 平成 10 年 7 月 16 日... 池内芳茂氏 (30) 平成 10 年 12 月 12 日... 熊川文彦氏 (32) 平成 11 年 3 月 24 日... 片岡 浩氏 (39) 平成 10 年 6 月 19 日... 山下英晃氏 (39) 平成 10 年 11 月 29 日... 長藤 勝氏 (39) 平成 11 年 4 月 20 日... 牧内繁基氏 (44-5) 平成 11 年 2 月... 酒井正明氏 (44-4) 平成 11 年 3 月 15 日... 甲田礼治氏 (46) 平成 11 年 4 月 13 日... 春日敦美氏 (46) 平成 11 年 6 月 3 日... 小林徳雄氏 (48) 平成 9 年 10 月 29 日... 清水 卓氏 (48) 平成 11 年 3 月 19 日... 吉本和男氏 (48) 平成 11 年 5 月 16 日... 村山寿男氏 (51) 平成 11 年 2 月 16 日... 小林芝興氏 (53) 平成 11 年 4 月 13 日... 竹花正章氏 (54) 平成 4 年 12 月... 西牧博徳氏 (55) 平成 9 年 7 月 28 日... 井出康俊氏 (55) 平成 9 年 8 月 21 日... 北村徹男氏 (56) 平成 11 年 4 月 19 日... 浜光太郎氏 (58) 平成 11 年 5 月 29 日... 関 順一氏 (58) 平成 11 年 10 月 13 日

◆平成 11 年 4 月 1 日～平成 10 月 18 日までの納入者。 ◆氏名の後の数字は、複数年の会費を平成何年まで納入されているかを示しています。 ◆お問い合わせは、事務局・幹事長宮島まで (☎043-253-6365)

◆年会費 & 運営基金 納入者氏名

Table with 10 columns of names and numbers. Includes names like 土屋 学15, 渡辺綱男10, 工藤善正11, etc.

◆運営基金拠出者◆ 33 弘世弘信 48 土屋 亮 51 小林保雄 51 徳永慈宏 54 竹花正章 57 宮下廣勝 58 依田茂久 59 小林義典 59 滝沢浄人 61 内山澄孝 62 坂口典和 63 荻原英夫 64 永井信介 65 小山雅堂 67 石井 豊 67 熊坂文成 67 清水研一郎 69 土屋文男 74 荻原久俊 (一口1万円。合計190,000円。基金累計は8,060,000円)



TOY'S FACTORY

Imaginations are free and fun, and excitements more wonderful and much greater.

“発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく”

- Mr. CHILDREN ● SOPHIA ● MY LITTLE LOVER ● HI-STANDARD 株式会社トイズファクトリー ● SPEED ● ゆず ● 代表取締役 井出孝光 (第61期)

文武両道に強い我が校
は芸術にも強いのだ

うえだ

Report

前進座 上沢美咲さん

劇団前進座 10年目のホープ、上沢美咲さん(87期、上田市中央出身)が、いま、ノっている。江戸後期の蘭学者、高野長英が追捕の手を逃れ、故郷水沢(岩手)のあばら屋に暮らす老母と娘に会いに来る「水沢の一夜」で、娘の能恵で準主役。一途に息子を信じる老母と対照的に、初めは家を顧みない父に反発し、やがて人間味溢れる父の姿に心を溶かしていく難しい役どころをはずっぱりで熟演した。大阪、名古屋と巡演し、10月末、本拠の東京・吉祥寺の前進座劇場で打ち上げた。「高3になって、みんなが受験勉強で目の色を変えているとき、私は演劇に夢中で、真っ直ぐ演劇学校に飛び込みました」。東京のアクト青山ス



クールを出て、前進座の採用試験に。「怖いもの知らずだったですね。前進座の研修所を出た人が多い中で、私は、もう青山で(演劇の勉強を)やってきたのですぐ舞台に出させてください、と言ったりして」。演出の先生が、元気で明るいと気に入ってくれた。



初舞台は90年10月、一葉の「大つごもり」でいきなり主役のおみねを当てられた。「貧しい女中役。痩せていたので抜擢されたのだと思う」。一筋に舞台を目指した彼女に、両親は一度も反対しなかったという。

やや細面、切れ長の目、痩せぎすの身体。舞台では、透明感のある張りのある声だ。

「水沢の一夜」東京公演には上田から両親が来てくれたほか、東京上田会の人たちも大勢来てくれた。「できるだけ早い時期に、上田での公演を実現したいです」と眼をきらきらさせる。

あちこちに大道具、小道具が置いてある楽屋の狭い通路を、テレビでも馴染みの中村梅之助さんが気軽に会釈しながらヒョイヒョイと歩いていく。帰り際、前進座東京営業所長の中川信子さんが「美咲ちゃんは頑張ってます。ホープですよ」と微笑んだ。(み)

上田高等学校創立百周年記念事業

1. 上田高等学校創立百周年記念式典

平成12年10月7日(土)10時開始

参加者 在校生、学校関係者、PTA、同窓会(代議員以上)、来賓

2. 記念祝賀会(H12年会員大会を兼ねる)

平成12年10月7日(土)(百周年記念式典終了後)

3. 同窓会館の改装

同窓生が使用しやすく、生徒の学習の拠点としての会館にするため、明るく馴染みやすい会館に改装する(不要になった厨房設備の改廃等)

4. 記念音楽会

10月30日 於上田市民会館

演奏 岩城宏之指揮、N響メンバー

5. 記念講演会

日時 未定

場所 1/上田高校講堂2/上田市民会館

講師 永六輔(50期)

6. 記念企画展 川村五郎展

日時未定。場所同窓会館。白田町出身、上中2

期生。20才で渡米NY、パリで彫刻家として名声を確率。

7. 校史「上田高等学校百年史」の刊行

百年の歩みを一目で見るビジュアルな校史。

A4版、オールコート紙、上製本
各期平均1ページ

8. 名簿の刊行

9. OB文庫の充実・校歌、応援歌などのCD発行

10. 記念事業予算(概算)

総額 1億2千万円

予算内訳 1.会館改装8千万円 2.文化イベント2千万円 3.校史1千万円 4.記念式典5百万円 5.予備費5百万円

11. 記念事業募金

総額1億2千万円

募集内訳 1会員1億円 会友及びPTA2千万円 会費の1億円については一口1万円、一口以上とする。但し、87期以降は、一口5千円以上とする。



この凛々しい上中生
はどんな青春を?
4pの特集を!

注記 一口1万円は、予算上決めましたが、募金は基本的には個人の自由意志ですので金額にはこだわりません。(絶大なるご協力を!)

祝!

会報 62号

62期(昭和39年卒業生)
は、がんばっています!

アクト法律事務所

港区赤坂3-9-18 ランディック赤坂見附ビル
3F ☎5570-5671 Fax 5570-5674

62期 弁護士 岩井重一
弁護士 安田隆彦
弁護士 平澤真一

株トラベルアイ



渋谷区東3-17-11 ヴェ

ラハイツ恵比寿東301号 ☎3442-4381

代表取締役 秋田 勇

国内・海外旅行のご相談はどうぞ!



株式会社小泉設計

葛飾区新小岩2-2-26

☎3655-6071(代) Fax 3655-6072

E-mail kunio@koizumi-ar.co.jp

代表取締役 小泉 邦夫

地球にやさしい建築設計

株式会社新都市計画

新宿区西新宿7-12-3 小島ビル3F

☎5332-5232 Fax 5330-6935

代表取締役社長

小川 朝行

不動産鑑定士

アトリエ華炎



杉並区阿佐ヶ谷1-14-5

第一栄ビル2F

☎ & Fax 3316-3960

代表 松井 由美